

タモ通し板による掘炬燵製作について

今回はタモ通し板による掘炬燵の製作です。炉縁と炉については大工さんで製作し、その上に暖卓を取り付けるものです。(常時暖卓はセットされた状態です。)

したがって、炉と炉縁をセットした後、採寸して脚寸法、天板寸法を設定いたします。もちろん、基本設計はあるものの手間は掛かりますが実際の仕上がり寸法を当たらないとうまく収まりません。

そして、今回は炉縁寸法で正方形のはずが縦横で4mm 違いがありました。

下図が採寸後の確定図面です。また、ヒーターはお施主様より早めに支給して戴き、寸法等を把握できました。



炬燵テーブル S=1/10

仕様

天板：タモ目通し板

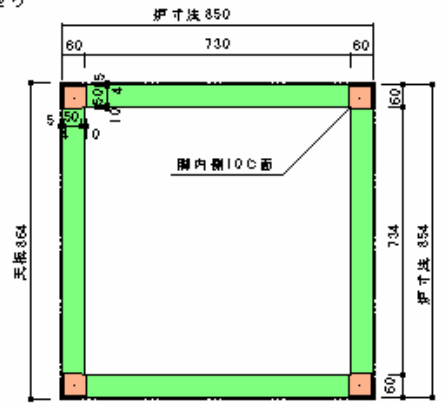
脚、蓋板：タモ目無垢

天板：クラノール塗し3回塗り

脚、炉縁、天板取り合い平面図

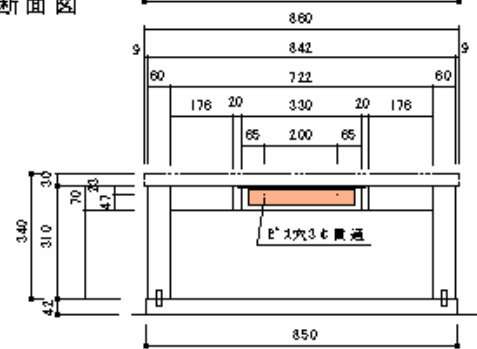
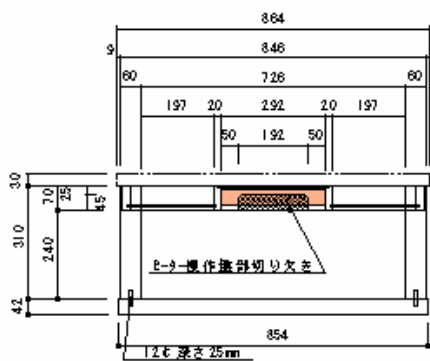
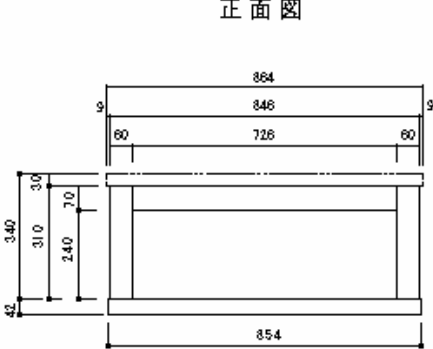
平面図

内部平面図



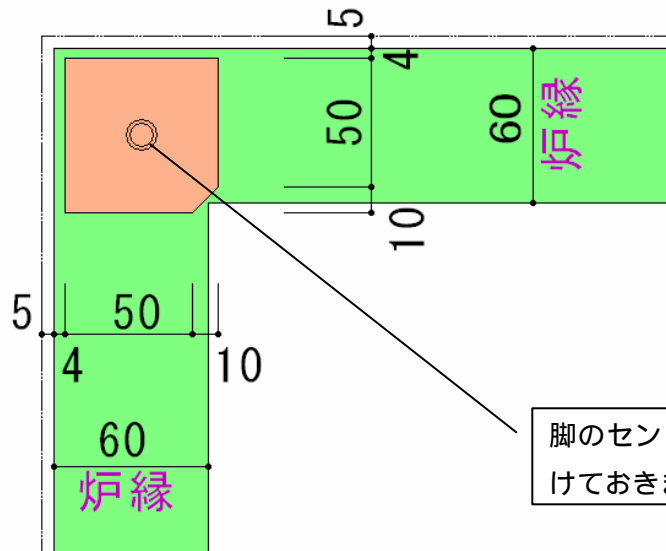
正面図

断面図



榎マツイ 家具部
平成22年5月10日

炉縁と脚との取り合い



炉縁60幅と脚60角とで4mmチリを確保するために脚内側10mm面取りとする。

炬燵の脚の組み立てし、ヒーターの取り付けを行います。



アンカー用 13 穴あけ。
脚はタモ材 2 枚合わせです。

炬燵が出来ましたら、脚部を炉縁とのチリが揃うようにセットし、炉縁に 13 のアンカー穴を空けて
アンカーピン 12 を差込、炬燵をセットします。

天板固定ボルト保管用メネジ、8箇所

コントローラー
収納部

天板固定ボルト穴
四隅 * 2 = 8箇所



夕モ杵目通し板天板状況。



天板の柾目方向を設計時に和室の長手方向に合わせています。



リビング側からの全景です。
洋間の一角に和室を設け、さらに掘炬燵を設置することでお施主様のこだわりを感じます。

次に同じ現場の追加のタモ無垢板の玄関ベンチについて

タモ無垢板 t60 で壁呑み込みです。

ここで座板と板足の固定をムラコシ製のレッグ FIX - B を使用しました。



レッグ FIX-B です。



靴の履き替えに便利なベンチです。この形状ならば、邪魔にならず、この変形の壁にうまく収まっています。

今回のような掘座卓、掘炬燵の依頼は一般住宅、店舗でも割と注文が入ります。狭いスペースでも畳コーナーを設けたいという和室への願望があるようです。

平成 22 年 6 月 2 日 (株)マルダイ 家具部 Da・Monde 鈴木